

今大会を顧みて

～「晴れの国」にスマッシュ響く！岡山で繰り広げられた真夏の激戦～

岡山県教職員バドミントン連盟
理事長 市川 佑

第64回全日本教職員バドミントン選手権大会の開催地・岡山は、中四国の交通の要衝として知られています。東西には山陽新幹線が走り、南北にも各方面へ鉄道や高速道路が延びるまさに“アクセス便利なまち”。この好条件に加え、お盆期間の開催も相まって、団体戦75チーム、シングルス434名、ダブルス322組（計644名）、総勢822名と、過去最多の参加者を迎える大会となりました。全国からこれほど多くの先生方にお越しいただけたことに、心より感謝申し上げます。

大会初日の研修会では、BWF国際審判員の坂本恵美様に「パリオリンピックへの道のり～競技審判員として～」と題してご講演をいただきました。ご自身の審判員としての歩みや国際舞台での経験、パリ大会に臨む心構えなど、笑いと感じの入り混じる貴重なお話に、参加者一同が引き込まれました。また坂本様には研修会だけでなく、その後も審判員として大会に参加していただき、岡山県内審判員の審判技術向上の面でもたくさん勉強させていただきました。大変ありがたく思っております。

今大会からは、男子55歳以上・女子60歳以上・65歳以上の各単複が新種目として加わり、多くの選手が参加して大会を盛り上げました。その他の種目も例年に劣らず熱戦続きで、「晴れの国岡山」の名にふさわしく、館内は冷房が効いているのに汗ばむほどの熱気！“まぶしいほどの晴れ晴れしさ”に包まれた大会となりました。地元岡山勢も奮闘し、女子成壮年団体の初優勝をはじめ、男子55歳以上単の中原選手、女子60歳以上単の香山選手が優勝するなど、嬉しい活躍が続きました。その結果、岡山県は総合4位に入賞し、地元開催を大いに彩ってくれました。

一方で、慣れない全国大会の運営ということで至らぬ点も多く、選手・競技役員の皆様にはご不便・ご負担をおかけしました。特に1会場での開催となったことで試合終了時刻が遅くなり、大会3日目は終了が21時近くになってしまいました。このような環境の中で、今大会レフェリーの貴田様、デピュティレフェリーの埴生様、中須賀様にはたくさんのご指示やアドバイスを賜り、競技運営が円滑に進むようご尽力いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。ただ、今大会は全日程を1会場で実施できたことで「全年代の試合を一緒に応援できて良かった」という声をいただき、運営一同胸が熱くなりました。また、選手の皆様には線審など競技進行にも多くのご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。

「次は大阪でまた会おう！」——そんな声が自然に飛び交う、笑顔あふれる岡山大会でした。来年度の大阪大会で、再び皆様にお会いできることを楽しみにしております。



岡山駅では
桃太郎が歓迎！



坂本様によるご講演



岡山県選手団役員の皆さんと